

委員会	女子委員会	担当者氏名	坂巻 富子
<p>〔現状〕</p> <p>「小学生年代からの底辺拡大」「リーグ戦の創出と再編」など各種取り組みが功を奏し、各年代で登録チーム数が増えているがレベルは全国に遠く及ばない。指導者のレベルアップが急務。1人の指導者が複数カテゴリーを指導し、審判、トレセンコーチまで「人材」が消耗している。指導者不足は深刻である。</p> <p>「サッカーを始めてみたい」という新たなニーズに対して受け皿は十分でない。なでしこジャパンの活躍で要望は急増。女子委員会と各クラブの協働が不可欠。</p>			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、U-12年代は30チーム、U-15年代は20チーム、高校年代は10チーム、大学は5チーム、社会人は20チームに。県内全域にくまなく分布して活動を展開している。 2、県内4地区でのレベル別リーグ戦環境が整備され、地区トレセンで育成強化の場もできる。U13、U16大会などを定着させてカテゴリーの垣根を取り払い、伸びる時期に選手を確実に伸ばすシステムが構築される。 3、各種大会、トレセンなどに合わせて、女子委員会として指導者講習会を開催し、指導者のレベルアップと情報交換の場がセットで開催される。 4、いくつかのカテゴリー全国大会や代表キャンプを県内に誘致するため、観光施設としても成立するサッカーの拠点施設を建設する。 5、なでしこリーグにチャレンジする全国レベルのチームが登場する。 <p>20年後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、U-12年代は70チーム、U-15年代は40チーム、高校年代は30チーム、大学は10チーム、社会人は40チームに。県内全域にくまなく分布して、地域NO1スポーツとして活動を展開。 2、温暖化が進む中、夏さわやかな信州は女子サッカーの全国大会の開催適地地になり、各種大会の誘致で、女子サッカーによる地域活性化が注目される。 2、女性の指導者や審判を育てるシステムが確立され、女子クラブのいくつかは日本のトップリーグ「なでしこリーグ」に参入し、活躍する。 3、各年代の全国大会で県内女子チームが優勝する。 4、女子ワールドカップが日本で開かれ、長野県は開催地の1つになる。 5、県内クラブ出身者が日本女子代表に選出され、中心選手として優勝に貢献する。 <p>20年以降50年後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、女子サッカーは日本の世界のメジャースポーツとして不動の地位を確立する。 2、長野県出身のコーチが全国各地のビッグクラブで活躍し、代表監督を務める。 3、長野県では、幼稚園児からママさん、おばあさんになっても、身近な生活圏内で各種リーグ戦が整備され、健康長寿はサッカーが支える長野県として世界から注目される。 4、各種世界大会を開催する最適地として世界に認められ、地域に大きく貢献する。 			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>失敗を恐れず、チャレンジできる長野県サッカーに！</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、各年代別リーグ戦と大会のあり方を徹底的に見直し、選手にとって今何が必要か、かかわるチームの指導者全員が考え、模索する場を作る。失敗をおそれない。変化をこわがらない、革新的でポジティブな長野県女子サッカーの基盤をつくる。人材を教育する。 2、選手の周辺の人たち、保護者や学校関係者、行政マン、他のスポーツ団体など、女子サッカーの周辺にいる人たちが気軽に参加できるイベントや催しを増やす。さまざまなコラボレーションによって女子サッカーの魅力をアピールする。 3、各クラブの成長を促進する講座、セミナーを年数回開き、女子サッカーを仕事にできる社会整備を進める。 4、指導者がいつでも指導者について気軽に学べる場を作る。できれば毎月、開いて勉強すること、レベルアップすることを協力を推奨する。 5、女子サッカーを広く、地域に伝える手段を複数確立し、ネットでつながるファンを増やしながらか、一般の人がもっと気軽にサッカーに親しめるイベントを増やす。 6、県や地方自治体、民間企業など日本や世界にサッカーの連携者を求める。 7、県協会組織の見直し。 			